しののめ



～校長室だより～　「東雲（しののめ）」
「夜明けの空が東方から徐々に明るんでゆく頃のこと。」東小も明るくなっていくことを願って･･･

第42号　校長　三浦久輝

学校ホームページに子どもの活躍が載っています。是非ご覧ください。

それぞれの「正義」

「ぼくが正しい。」

「わたしの方が正しい。」

子どもたちの会話の中には、意見がぶつかり合う言葉がよく出てきます。学校は、多くの子どもたちが集団で生活する場ですから、自分の考えをもち、それを伝えることはとても大切なことです。

しかし一方で、「自分が正しい」と思うことが、必ずしも相手にとっても同じとは限りません。

例えば、休み時間にトラブルがあったとします。ある子は「●●さんに悪口を言われた」と言います。●●さんは「良くないことを注意した」と言います。どちらも自分では本当にそう思っているのです。どちらかが嘘をついているとは限りません。同じ出来事でも、見え方や感じ方は人によって違うからです。

私たち大人の世界でも同じことがあります。急いで歩いている人には、ゆっくり歩く人が邪魔に見えることがあります。一方で、ゆっくり歩く人には、急いで追い越していく人が危険に感じられることもあります。それぞれに理由があり、それぞれに「正しさ」があります。

もちろん、社会には守らなければならないルールがあります。人を傷つけないこと、安全を守ること、約束を守ることなどは、みんなで大切にしたい共通の正義です。しかし、その土台の上には、一人一人の考え方や価値観が存在します。

だからこそ学校では、「どちらが正しいか」を決めるだけではなく、「なぜそう考えたのだろう」と相手の立場に立って考えることを大切にしています。

理科の学習でも、「予想が外れる」ことは決して失敗ではありません。友達とは違う考えをもつからこそ、「どうしてそう考えたの？」という対話が生まれます。そこから新しい発見や、より深い学びへとつながっていきます。多様な考えを認め合うことは、学びを豊かにする力でもあるのです。

最近では、インターネットやSNSなどで、自分と同じ考えだけに触れやすい時代になりました。そのため、自分と違う意見に出会うと、「間違っている」と決めつけてしまう場面も少なくありません。しかし、本当に大切なのは、違いを否定することではなく、「そういう考え方もあるのか」と受け止める心ではないでしょうか。

子どもたちは、学校生活の中で友達との関わりを通して、多くの「違い」に出会います。意見がぶつかることもあります。思い通りにならないこともあります。しかし、その経験こそが、自分とは違う価値観を理解し、相手を尊重する力を育てていきます。

「自分の正義」をしっかりもつことは大切です。同時に、「相手にも相手の正義がある」ことを知ることは、もっと大切です。その二つを行き来しながら、人は少しずつ視野を広げ、思いやりのある人へと成長していき

ます。

本校でも、一人一人が安心して自分の考えを伝え、違いを認め合いながら共に学び、共に成長できる学校づくりを進めてまいります。ご家庭でも、ぜひ日々の出来事を話題にしながら、「相手はどう思ったのかな」と親子で考える時間をもっていただければ幸いです。

子どもたちの「いのち　かがやく」ステキな姿

高学年が中心となって「自分たちの運動会を自分たちでつくりあげよう」という気持ちが一人ひとりもてています。





応援練習では、高学年が手本を示しながら伝えます。





各学年練習後に振り返りを行い、次へめあてを立てて練習に取り組んでいます。





全校練習では、開閉会式、全校競技の進行を子どもたちで進めました。

あったかタイムでも「運動会に向けて頑張っていること」が多くの学級でテーマとなっていました。友だちのがんばりたいことを知り、応援する姿がたくさん見られます「自分の思いを伝えること、相手の思いを知ること」によって関係が深まっていきます。

